



INFORMATION

日本モンサントからのインフォメーション

モンサントの第2四半期決算、目標を達成。主要な成長の原動力となる成果が進展を遂げ、2017年度以降の力強い成長の基盤を築く

- 2016年度の報告ベースでの一株当たり利益(EPS)は3.72ドル~4.48ドルに改善。オンゴーイングベースでのEPSとフリーキャッシュフローについては再確認。
- 30億ドルの加速型自社株買い(ASR)を完了し、安定した資本配分という2016年度のコミットメントを達成。
- 新たなソリューションへの需要の高まりを受け、2016年度の南米における Intacta RR2 PRO™ ダイズの栽培は引き続き拡大し 3,500 万エーカーに到達。Roundup Ready 2 Xtend™ は米国のダイズの栽培面積の 300 万エーカーを占め、Bollgard II® XtendFlex™ ワタの栽培も、2016 年度に米国で 200 万エーカーに達する見込み。
- 主な変動要因と成長の原動力となった成果から判断し、今後の見通しと成長機会が改善し、2016 年度半ばから 2019 年度に EPS において予想される年平均成長率が基準の 10%後半を達成できることを確信。
- 引き続きイノベーションによる差別化を図り、最先端のソリューションを提供するのに最適なパートナーとして独自の立場の維持を図る。

2016年4月6日 ミズーリ州セントルイス(米国) — モンサント・カンパニー(ニューヨーク証券取引所: MON)は本日、2016会計年度第2四半期の決算を発表しました。当面の厳しい農業環境にかかわらず、長期的な成長の原動力に関する主要なマイルストーンで引き続き進展を遂げ、予想どおりの結果を達成しました。当社は、新たな世界的ハイブリッド・トウモロコシの製品ラインアップの展開と、Intacta RR2 PRO™ ダイズ(除草剤耐性・害虫抵抗性ダイズ)の普及の促進、新たなRoundup Ready 2 Xtend™ の発売、デジタルプラットフォーム内での一連のパートナーシップ拡大の進展にけん引され、中核的事業で重要な取り組みを継続しています。また、支出の最適化および目標とする資本構造にも堅実に取り組んでおり、近頃、30億ドルの加速型自社株買い(ASR)の実施合意を完了しました。モンサント・カンパニーは 2016 会計年度に関して、報告ベースでの EPS が改善する一方、オンゴーイングベースでの EPS およびフリーキャッシュフローは先に修正した目標の範囲内に収まるものと見込んでいます。

(単位: 100 万ドル、1 株当たりの数字を除く)	第 2 四半期		半期	
	2016 年	2015 年	2016 年	2015 年
部門別純売上高				
トウモロコシの種子関連事業	\$ 2,687	\$ 2,912	\$ 3,432	\$ 3,840
ダイズの種子関連事業	782	883	1,220	1,279
ワタの種子関連事業	37	30	85	113

April 19, 2016

野菜種子	192	207	330	362
その他の作物の種子関連事業	119	146	149	205
種子関連事業 合計	\$ 3,817	\$ 4,178	\$ 5,216	\$ 5,799
農業関連製品事業	\$ 715	\$ 1,019	\$ 1,535	\$ 2,268
農業関連製品事業 合計	\$ 715	\$ 1,019	\$ 1,535	\$ 2,268
純売上高 合計	\$ 4,532	\$ 5,197	\$ 6,751	\$ 8,067
売上総利益	\$ 2,598	\$ 3,039	\$ 3,499	\$ 4,450
事業費	\$ 935	\$ 1,019	\$ 2,108	\$ 2,011
支払い利息 - 正味	\$ 86	\$ 64	\$ 195	\$ 141
その他費用(利益) - 正味	\$ 170	\$ (6)	\$ 195	\$ 9
純利益	\$ 1,063	\$ 1,425	\$ 810	\$ 1,668
希薄化後 1株当たり利益	\$ 2.41	\$ 2.92	\$ 1.80	\$ 3.41
比較性に影響を及ぼす項目 - EPS Impact				
事業再構築費用	0.01		—	0.48
非継続事業に係る収入	(0.01)	(0.02)		(0.04)
環境和解金および訴訟和解金	0.01		—	0.01
オンゴーイングベースの事業からの希薄化後 1株当たり利益(オンゴーイングベース EPS の定義については、注1を参照)	\$ 2.42	\$ 2.90	\$ 2.25	\$ 3.36
実効税率	25%	28%	21%	28%

純売上の割合としての比較:	第2四半期		半期	
	2016年	2015年	2016年	2015年
売上総利益	57%	58%	52%	55%
販売費および一般管理費	13%	12%	17%	15%
研究開発費	8%	7%	10%	10%
税金等調整前継続事業利益	31%	38%	15%	28%
純利益	23%	27%	12%	21%

会長兼最高経営責任者ヒュー・グラントは、「業界で最も実績のある総合的なパイプラインを通じて、私たちは顧客に価値をお届けすることを約束し、引き続き強力な成長のための計画を掲げています」とした上で、「これを受けて私たちは、2016会計年度半ばから2019会計年度にEPSにおいて予想される年平均成長率(CAGR)が基準の10%後半に達するという自信を深めており、さらには業界におけるイノベーションの原動力であり続け、最先端の農業ソリューションを提供するのに最適なパートナーとしての立場を維持できると確信しています」と述べています。

最新の事業報告

2016会計年度第2四半期の純売上高は前年の第2四半期と比較して減少し、約45億ドル(約4,905億円)となりました。今四半期の売上純利益も前年同期と比較して減少し、約26億ドル(約2,834億円)となりました。2016会計年度上半期については、純売上高が約68億ドル(約7,412億円)、売上純利益が約35億ドル(約3,815億円)となりました。

2016 会計年度第 2 四半期の販売費および一般管理費は 5 億 8,600 万ドル、研究開発費は 3 億 4,000 万ドルでした。

2016 会計年度第 2 四半期の EPS は報告ベースで 2.41 ドル、オンゴーイングベースで 2.42 ドルとなりました。通貨の為替変動を考慮しない場合、2016 会計年度第 2 四半期における報告ベースでの EPS は 17% 減、オンゴーイングベースでの EPS は、前年同期と実質的に同水準でした。今四半期のプラス要因、すなわちモンサント・カンパニーの株式数の削減、ブラジルにおけるトウモロコシの価格、Intacta RR2 PRO™ ダイズの普及の拡大、事業費の削減は、農業関連製品事業分野における除草剤グリホサートの落ち込み、米国でのトウモロコシとダイズの値下げ拡大、米国におけるシーズン開始の遅れと栽培面積の拡大不調の見込みによるダイズの種子販売量の低下、前年の種子生産計画の縮小によるトウモロコシの売上原価の増加によって相殺されました。

2016 会計年度上半期の EPS は、報告ベースで 1.80 ドル、オンゴーイングベースで 2.25 ドルとなりました（オンゴーイングベースでの EPS に対する EPS の調整、および通貨の為替変動を考慮しない場合の報告ベースでの EPS に対するオンゴーイングベースでの EPS の調整については注 1 をご参照ください）。

キャッシュフロー

2016 会計年度上半期において、事業活動により生じた純キャッシュは、前年同期の約 15 億ドルに対して、約 14 億ドルでした。2016 会計年度第 1 四半期の投資活動に必要な純キャッシュは、前年同期の 5 億 3,200 万ドルに対して、4 億 8,300 万ドルでした。2016 会計年度上半期の財務活動に必要な純キャッシュは、前年同期の 4 億 600 万ドルに対して、約 35 億ドルでした。2016 会計年度上半期のフリーキャッシュフローは、前年同期の 9 億 8,600 万ドルに対して、9 億 600 万ドルでした（フリーキャッシュフローの調整については注 1 をご参照ください）。

モンサント・カンパニーは 2016 会計年度第 2 四半期に 30 億ドルの ASR の実施合意を完了し、引き続き資本配分に関するアプローチに精力的に取り組んでいます。

今後の見通し

主に事業再構築活動に関係する費用の会計報告の予想されるタイミングの変更により、モンサント・カンパニーは、2016 会計年度における報告ベースでの EPS を 1 株当たり 3.72 ドル～4.48 ドルの範囲に変更しました。オンゴーイングベースでの EPS については、1 株当たり 4.40 ドル～5.10 ドルの範囲であると確認しました。この目標には、為替のマイナス寄与が 0.90 ドル～1.00 ドルと見込まれることを含め、世界的逆風および業界での逆風が継続すると予想したことが反映されています（オンゴーイングベースでの EPS に対する EPS の調整については注 1 をご参照ください）。

モンサント・カンパニーはまた、2016 会計年度における通年のフリーキャッシュフローの予想レンジは 14 億ドル～16 億ドルであると再確認しました。2016 会計年度において、事業活動によって生じる純キャッシュについては 22 億ドル～26 億ドルと予想し、投資活動に必要な純キャッシュについては約 8 億ドル～10 億ドルと予想しています（フリーキャッシュフローの調整については注 1 をご参照ください）。

モンサント・カンパニーは、2016 会計年度における主力の種子関連部門の売上総利益が前年と相対的に同水準となると予想しています。主に 2016 会計年度に 3 億ドル～4.5 億ドルの範囲でライセンス許諾の取引増加が見込まれること、Intacta RR2 PRO™ サイズの普及の拡大、世界的なトウモロコシの市場拡大にけん引され、約 4 億ドルの為替のマイナス寄与を考慮しない場合、種子関連部門の売上総利益は 1 桁の成長が見込まれます。除草剤グリホサートの後発品の価格が比較的安定することを前提に、農業関連製品事業において、2016 会計年度の売上総利益は引き続き 9 億ドル～11 億ドルの半ばあたりになると見込まれます。

2016 会計年度の事業費については、事業再構築活動に関する費用および既存の環境和解金・訴訟和解金を除いて、2015 会計年度と比較して微減すると予想しています。この予想には、上記のようなチャンスに対する長期的な成長見通しを支えるための新しいプラットフォーム支出を含んでいます。その他の正味の費用として、アルゼンチン・ペソの切り下げに係る費用により、対前年で約 1.8 億ドルの費用増が見込まれます。

今四半期以降の見通しとしては、2016 会計年度半ばから 2019 会計年度に、報告ベースおよびオンゴーイングベースでの EPS において予想される年平均成長率が基準の 10% 後半を達成することが見込まれます。これは、モンサント・カンパニーのサイズ関連のイノベーションによる成長の原動力、トウモロコシの世界的なプラットフォームの強さと安定性、規律ある財務の継続、通貨の安定性の想定、トウモロコシとサイズの原価の改善によりけん引されると予想されます。

モンサント・カンパニーからのプレスリリース全文は以下からご覧いただけます(英文)

<http://news.monsanto.com/press-release/sustainability/monsanto-company-releases-2015-sustainability-report>

モンサント・カンパニーは、人口が増え続ける世界の人々に必要な食料を供給するために役立つ広範囲なソリューションを提供することに取り組んでいます。当社は果物や野菜からトウモロコシ、サイズやワタといった主要穀物まで、農業生産者が十分な量の栄養のある食料を生産するのに役立つ様々な種子を生産しています。当社は農業生産者が天然資源を保全し、農業を改善するためのデータを用い、水や他の重要な資源をより効率的に使用し、そして作物を害虫や病気から守るために役立つ持続可能な農業ソリューションを提供するため尽力しています。プログラムやパートナーシップを通じ、当社は農業生産者、研究者、非営利団体、大学など、世界的な課題に取り組む人々と協力し合っています。モンサント・カンパニーや当社の取り組み、および問題解決のため献身的に取り組んでいる 20,000 人を超える従業員についての詳細は、discover.monsanto.com および monsanto.com をご覧ください。ツイッターの www.twitter.com/MonsantoCo やブログの www.monsantoblog.com の Beyond the Rows®、或いは当社の News Release RSS Feed を購読されますと、さらに詳細な情報をご覧いただけます。

日本モンサント株式会社の取り組みや事業についての詳細は、こちらをご覧ください。

【ウェブサイト】

<http://www.monsanto.co.jp/>

【Facebook】

April 19, 2016

<https://www.facebook.com/MonsantoJapan>

【Twitter】

<https://twitter.com/monsantojapan>

この件に関するお問い合わせ先

日本モンサント株式会社

広報部 佐々木

TEL: 03-6264-4824 FAX: 03-3566-5411 E-mail: bio.info@monsanto.com